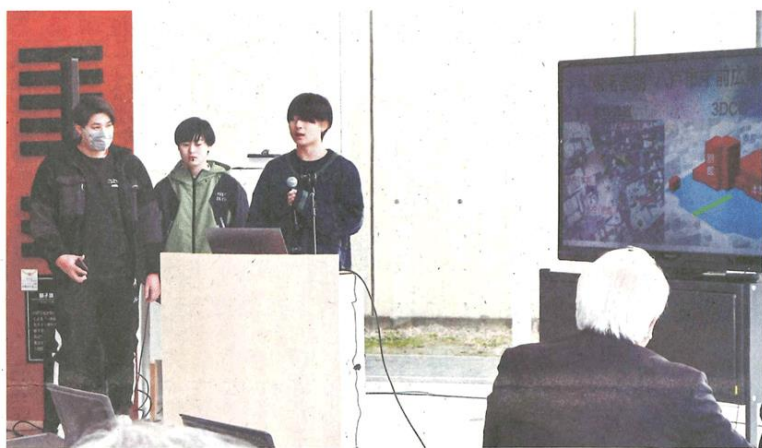


デーリー東北

2024年(令和6年)1月24日(水曜日) (13)

学生が考える解決策は 中心街活性化 八工大生が報告会

八戸



市民を前に中心街の課題解決策を発表する大学生

八戸工業大は19日、八戸市の「はっち」で、市中心街の課題解決に向けた最終報告会を開いた。土木建築工学科の3年生約50人が、景観向上や市庁前広場の再編など6テーマに分かれて授業で検討しており、若者らしい感性で考案した活性化策を示した。

同大と市、第三セクター・まちづくり八戸は2016年度、中心街の課題解決に向けた覚書に調印しており、学生が毎年、実地調査を行って解決策を市に提言している。

市庁前広場の再編では、現在の公用車用道路を別館裏に移

し、バスケットボールやスケートボードエリアを設置するほか、日常的に人々が集うよう、ビアガーデンやラーメンフェスタなどのイベントを開催することを提案した。歩行者用の通り抜け空間の拡充については、市庁からはつちなどをつなぎ、ゆりの木ポウルまでの空中の歩道を作る案も披露した。

市まちづくり推進課の工藤俊憲課長は「街中に若者がいる状況をつくる面白いアイデアが多かった。自分たちなら、こうしたいんだという思いにあふれていた」と講評した。

まとめた最終報告書は、3月に熊谷雄一市長に提出する。

(出川しのぶ)

※この記事・写真等は、デーリー東北新聞社の承諾を得て転載しています。